

# 若者や家族が海に学び親しむ ボートづくり・体験プロジェクト(海と日本 2022)

## 活動報告書



海の士を育む会

2023年3月

## 1. プロジェクト概要

海士町は、ユネスコ世界ジオパークに指定されている隠岐諸島に位置し、独自の自然と文化を有する。海に囲まれ、海の恵みで成り立っている島だが、近年特に若い世代を中心に、海との文化的、経済的なつながりや関心が低下している。

過去には艀を用いた木造漁船の「かんこ舟」が漁業等に広く用いられ、子どもの時から舟に乗って遊びや手伝いを行うことで海が身近に存在したが、こうした伝統や知識が若者に継承されず、海への理解や感謝も失われつつある。

こうした中で、エンジンボートにとってかわられ、打ち捨てられている伝統的な「かんこ舟」を修復するとともに、学生が島内の高齢者から「かんこ舟」や海の伝統と文化を聞き出すことで、「かんこ舟」を再生し、知識と伝統を継承できるようにすることを目的に「かんこ舟」復活プロジェクトを実施した。

また、ボートづくりやボート体験等を通じて、若者や家族が自然や暮らしと海の間をつながりを楽しみながら学習・体験できることを目的にボートづくり体験教室やアドベンチャー体験教室を実施した。

## 2. かんこ舟復活プロジェクト活動内容

### (1) 学校との連携

- ① 2022年6月から9月にかけて、島根県立隠岐島前高校のリベラルアーツの授業の中で、21名の生徒がかんこ舟や舟にまつわる伝統や暮らしを地域の高齢者から聞き取り調査を行ったり、使われなくなったかんこ舟の修復を行い、地域の方から漕ぎ方を習う等した。かんこ舟や当時の暮らしの様子等について学ぶに連れて他地域との比較や存続の意義等の探究につながる疑問を自ら立て、SDGsについて考えるきっかけともなっていた。また、こうした取り組みの様子は山陰中央新報や地元のケーブルテレビでも報道された。



- ② 2022 年 10 月、海士小学校からの依頼により、総合的な学習の時間において海士の海や海と人とのつながりを学ぶ一環として、5 年生及び 6 年生 20 名がかんこ舟に乗船したり、地域の方にかんこ舟や舟小屋について質問したりする授業を実施した。



- ③ 海士町では、「子ども議会」と呼ばれる、小学校 6 年生と町長や町執行部との町づくりについての討論会を実施しており、子供たちが事前調査・学習の上で、さまざまな質問や提案を行い、よりよい町づくりについて大人と意見を交わす場となっている。この中で、かんこ舟のイベントに参加した一人の生徒が、町に対してかんこ舟の保存・継承を呼びかける提案を行い、町長からも提案を受け止め、町全体で伝統の継承に努めていく答弁を議会にて得ることにつながった(2023 年 2 月)。
- また、その一環として生徒自ら、他の子ども達にもかんこ舟を知ってもらう機会を作りたいとして、かんこ舟を子ども達で塗装するイベントを企画し、本プロジェクトの協力も得ながら 1 月に実施し、6 名の小学生に加え、10 名前後の学校関係者や地域住民の参加を得た。



(2) かんこ舟を活用したイベント

- ① 海士町では例年 8 月末にキンニャモニャ祭りと呼ばれる夏祭りが開催されるが、そのサイドイベントとしてかんこ舟競争大会を実施した。高校の授業で修復した 1 隻に加え、もう 1 隻を調達・修復し、2 隻の舟で乗り方体験・説明や競争大会を行った。50 名近くが体験会や競争に参加した。若者が漕いでもまっすぐ前に進めないのに対して、漕ぐのは子供のとき以来というベテランの方が見事な腕前を披露して活躍し、また、若者に漕ぎ方を教えることで老若男女が交流しながら楽しめるイベントとして大変盛り上がった。



- ② 8月に「大人の島留学・島体験」というプログラムで島外から海士町に来ている若者10名前後に乗船体験を実施した他、東洋大学の留学生5名(パキスタン、ザンビア、ケニア、ルワンダ、マラウイ)及び教員2名の日本の地域を学ぶプログラムの一環として乗船体験を行った。



### 3. ボートづくり教室・アドベンチャー体験

#### (1) ボートづくり体験教室

木造カヌーを製作する教室を2022年9月に実施し、4名の参加を得た。

詳細は、PRレポートを参照。

なお、2023年2月末から3月にかけて第2回の開催を予定し準備を進めていたが、インストラクターが2月中旬に体調不良となり、4月以降に実施を延期することとした。



## (2) アドベンチャー体験

6月から7月にかけて子ども向けのヨット・セーリング教室を実施し、23名の参加を得た。また、9月末から10月にかけて、シーカヤック体験等の海遊びと海辺でのキャンプを組み合わせた子ども向けのキャンプ教室を開催し、11人が参加した。セーリング教室の様子は山陰中央新報にも取り上げられた。

詳細はPRレポート参照。

上記以外に、福井小学校のアウトドアクラブの依頼を受けて、クラブ活動の時間を使って生徒12名向けにセーリング教室を実施した。



## 4. 成果・教訓

### (1) かんこ舟復活プロジェクト

当初計画では、修復には時間がかかることを見込んでいたが、短期間で修復可能

な舟を入手することができ、その結果、競争大会等計画していなかった大きなイベントも開催可能となり、参加者数も当初目標の5倍以上となった。特に、かんこ舟をよく知るシニア層が若者に漕ぎ方や伝統を教えることで活躍する機会が生まれ、「目の前にあったかんこ舟を今まで活用できていなかったのに気づいた」等の言葉を地域の方に頂いたり、小学生がかんこ舟の保存を町に提案する等の独自の動きにもつながり、約2200人の島民の間で広く注目を得た手応えを得た。

今後は、かんこ舟と共に劣化が進む舟小屋の再生や定期的な競争大会等を開催して、島内外の方とかんこ舟をきっかけに海や伝統を楽しみながら守り伝える動きをより大きくしていきたい。

## (2) ヨットづくり・アドベンチャー体験

木造ボートづくり教室の開催により、基礎的な設計、木工技術、チームワークを4人の参加者が習得した。また、アドベンチャー体験については、4回イベントを開催し、延べ46人の小学生が参加し、ヨットやカヌーの操船技術や知識を習得した。小学生向けのセーリング教室やキャンプ体験は、学校や保護者からも好評を博し、学校のクラブ活動での実施を要請される等、当初計画以外の展開にもつながり、子ども達への海や船に関する体験・知識・楽しさを提供する機会を幅広く持つことができた。

今後は、地域からの要望も踏まえ、ミニ水族館や水産業体験といったプログラムも実施して、より幅広く海や暮らしについて楽しみながら学び体験する機会の提供を行っていきたい。

## 5. 参考資料

6/19 付山陰中央新報(ウェブ版)記事

<https://www.sanin-chuo.co.jp/articles/-/225362>

7/21 付山陰中央新報(ウェブ版)記事

<https://www.sanin-chuo.co.jp/articles/-/241731>

## 【添付資料】

6/28 付 ニュースリリース

7/4 付 PR レポート(セーリング教室)

10/5 付 PR レポート(キャンプ教室)

10/7 付 PR レポート(ボートづくり体験教室第1回)

2022年6月28日



報道関係者各位

海の士を育む会

## 隠岐伝統の「かんこ船」復活に向けて高校生が出航！

2022年6月～9月 <島根県隠岐郡海士町>

海の士を育む会は、島根県立隠岐島前高校と連携して、地域の持続的な発展への貢献を目的に、隠岐伝統の「かんこ船」の復活に向けた取り組みを6月から9月にかけて実施します。この取組は、次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環です。



海士町の海の士を育む会は、島根県立隠岐島前高等学校（以下、島前高校）と連携して「かんこ船」と呼ばれる伝統的な和船について調査を行うとともに、かんこ船を修復することで、地域の暮らしや文化と海との関わりを再発見し、持続可能な地域のあり方を考えていきます。

島根県の隠岐諸島では、古くより、「かんこ船」と呼ばれる和船が漁に使われ、子どもの頃から人々はかんこ船や海に親しんできました。しかしながら、エンジン付きの漁船の普及により、近年かんこ船は使用されなくなり、特徴的



な櫓を使った漕ぎ方を知る方も少なくなってきました。

一方で、「かんこ」の語源や船の伝播を始め、かんこ船については不明なことも多く、かんこ船やその背景にあった暮らしについての知識や伝統・文化が今後一層散逸していくことが懸念されます。

そこで、海の士を育む会では、地域課題学習を行っている島前高校に協力を依頼し、高校3年生のリベラルアーツの授業の中でかんこ船について調査を行うこととしました。

高校生は単にインターネットや書籍を使って調べるのではなく、地域に出て、高齢者を始めとする地域の方々からかんこ船や当時の暮らしについて直接聞き取りを行います。同時に、アメリカから海士町に移住してきた木造ヨットづくりの専門家であるハワード・ライス氏が使われなくなったかんこ船を修復します。これにより、物理的のみならず、情報や文化の観点でもかんこ船を復活・再発見します。

SDGsの視点を取り入れ、地域の持続的な発展に貢献しようという意欲と態度を身に付けることを目的にした授業の中で、高校生は地域の暮らしの変遷や、将来に継承していきたい大切なものが何であるかを考え、最終的にはその成果を地域に向けて発表する予定です。

#### <今後の予定>

6月中旬 授業(毎週水曜日午前中)及びかんこ船修復作業開始

7月中旬 かんこ船修復作業完了

7~8月 かんこ船操船体験

9月 高校生による調査結果の地域向け発表

#### 【メディアの方へ】

この活動はご取材可能です。

取材日もご相談可能ですので、詳細は下記までお問い合わせください。

電話番号:08514-2-1221

メールアドレス:kubo.amacho@gmail.com

9月の調査結果発表に向けて、高校生たちが地域について学習し、かんこ船が修復される様子をご取材頂けますと幸いです。

#### <団体概要>

団体名称 : 海の士を育む会

URL :

<https://www.facebook.com/%E6%B5%B7%E3%81%AE%E5%9C%9F%E3%81%B2%E3%81%A8%E3%82%92%E8%82%B2%E3%82%80%E4%BC%9A-102705965795378/>

活動内容 : 海に関する体験や教育を通じてあらゆる世代の人々に海士町の海や文化に親しむ機会を提供する海洋センター(仮称)を設立し、活動を軌道に乗せるための検討・準備を行うことを目的に、ヨットづくり教室、ヨット体験、伝統的なかんこ船の復活プロジェクト、GPS付ミニボートプロジェクト等の活動を行っています。



## 日本財団「海と日本プロジェクト」

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

<https://uminohi.jp/>

### <お問い合わせ先>

団体名称	: 海の士(ひと)を育む会/海士町役場	担当者: 久保 英士
電話番号	: 08514-2-1221	メールアドレス: kubo.amacho@gmail.com

2022年 7月4日



報道関係者各位

主催者(海の士(ひと)を育む会)

## 海に触れよう！ビギナー向けヨット体験

～小学生を対象としたヨット教室を開催しました～

2022年6月18日,7月2日開催 【場所】福井小学校

海に関する体験や教育を通じてあらゆる世代の人々に海士町の海や文化に親しむ機会を提供することを目的に発足した海の士(ひと)を育む会は、6月18日と7月2日に小学生を対象としたヨット教室を開催しました。10名以上の町内の小学生が集まり、ヨットで世界を巡ったハワード・ライスさんが風でどうやってヨットが動くのかを学んだ上で、ヨットの船舶に挑戦しました。このイベントは次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人がつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環です。



### イベント概要

- ・開催概要
- ・日程 6月18日,7月2日
- ・開催場所 島根県隠岐郡海士町 福井小学校
- ・参加人数 13名,10名

初回はヨットの仕組みを学び海に触れる

ヨットに乗るためには、基本的なヨットの構造を理解し、安心安全に行う必要があるため、午前中は、陸上での講習を行いました。子供たちが初めての内容も楽しめるように座学をいかに楽しくできるかを意識した構成を組み立てました。みんなヨットの構造や風と対話し、帆を操って海上を自由に進むために必要な知識を学びました。ハワードさんの引き込むパワーも相まって子供たちは終始楽しそうに講習を終えました。ハワードさんのヨットの操船の見本を見てもらった後、7月2日に行う第2回のヨット教室の導入的役割として今回は海と船に慣れてもらうために、子どもたちにはセイル(帆)を外した状態のボートを使い、パドルによる操船で海にばら撒いたボールやスポンジを回収するというゲームを行いました。



## 2回目はついにヨットの操縦！

2回目では、第1回のヨット教室で学んだ風の知識を踏まえて実際に帆を使い、岸から目的地に向かいまた戻ってくるまでをみんなで取り組みました。初めは、ハワードさんと子供たちが1対1でヨットに乗り操縦やヨットの動きを感じ、次に2人1組でペアを組んもらい、協力して自分達だけで操縦するところまで行いました。

多くの子供たちが初めてのヨット操縦でしたが、操縦を楽しんでいました。

参加した子供達からは、『次はいつやるの?』といった声や親御さんからは、『ぜひ次は私も参加したい』

との声も頂きました。



<団体概要>

団体名称 : 海の士(ひと)を育む会

URL :

<https://www.facebook.com/%E6%B5%B7%E3%81%AE%E5%A3%AB%E3%81%B2%E3%81%A8%E3%82%92%E8%82%B2%E3%82%80%E4%BC%9A-102705965795378>

活動内容 : \* \* \* \* \*



### 日本財団「海と日本プロジェクト」

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

<https://uminohi.jp/>

#### <お問い合わせ先>

団体名: 海士町役場 人づくり特命担当課 担当者名: 久保

電話: 08514-21221

メールアドレス: [uminohitowohagukumukai@gmail.com](mailto:uminohitowohagukumukai@gmail.com)

2022年10月5日



報道関係者各位

海の士を育む会

海をテーマとしたイベントを開催  
島内の子供たちを対象とした2泊3日のキャンプ  
2022年9月30日~10月2日【島根県隠岐郡海士町】

海の士を育む会は、海士町において9月30日から10月2日にかけて海をテーマとした2泊3日のキャンプイベントを開催しました。カヤックや釣りといった海ならではの遊びを中心に今住んでいる島の魅力を再認識する機会として実施しました。このイベントは、次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環です。



### イベント概要

- ・開催概要 海と遊ぶことを中心としたキャンプイベント
- ・日程 2022年9月30日から10月2日
- ・開催場所 明屋海岸キャンプ場
- ・参加人数 11名

### 島だからできる遊び

島に住んでいるとどうしても海は日常の中にあるもの。そこで今回、改めて海の面白さ、楽しさを再認識してもらうた

めに海の遊びを取り入れたキャンプを実施しました。カヤックではパドルの漕ぎ方をお伝えし、釣りでは竹を用いて一から竹竿を作りました。基本漕ぎ方や作り方を伝えた後は自由に行動してもらいました。中にはカヤックに乗らず漕いでいる子を泳いで追いかけるなど私たちが思っていたより遊びは自由なんだと感心してしまいました。



## 海を考えるきっかけに

保護者の方からも「2泊3日楽しんで帰ってきました」などの声を頂き嬉しく思いました。私たちとしても今回の企画は海を楽しんでもらうことが第一歩と認識しています。下記の写真は、毎朝のごみ拾いの様子です。初め嫌そうにやっていた子達も、気づいたら夢中になってたりごみ拾いそのものを楽しんでくれる子までいたことには驚きました。でもそうやって楽しい場所、好きな場所だからこそどうするべきか今回の企画を通して以前より少しでも海に関心を持ってもらえたら、企画した人間としてとても嬉しいです。



## <団体概要>

団体名称 : 海の士を育む会

URL :

<https://www.facebook.com/%E6%B5%B7%E3%81%AE%E5%9C%9F%E3%81%B2%E3%81%A8%E3%82%92%E8%82%B2%E3%82%80%E4%BC%9A-102705965795378/>

活動内容 : 海に関する体験や教育を通じてあらゆる世代の人々に海士町の海や文化に親しむ機会を提供する海洋センター(仮称)を設立し、活動を軌道に乗せるための検討・準備を行うことを目的に、カヌーづくり体験教室、ヨット教室、伝統的なかんこ船の復活プロジェクト、GPS付ミニボートプロジェクト等の活動を行っています。



### 日本財団「海と日本プロジェクト」

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

<https://uminohi.jp/>

#### <お問い合わせ先>

団体名称 : 海の士(ひと)を育む会/海士町役場 担当者: 久保 英士  
電話番号 : 08514-2-1221 メールアドレス: [uminohitowohagakumukai@gmail.com](mailto:uminohitowohagakumukai@gmail.com)



2022年10月7日



報道関係者各位

海の士を育む会

木製カヌーづくり体験教室を開催  
廃材を活用したカヌーが完成しました！

2022年9月25日 【島根県隠岐郡海士町】

海の士を育む会は、海士町において9月16日から25日にかけて週末を中心に木製カヌーづくり体験教室を開催し、4名の参加者がゼロから木製カヌーを作製して完成させました。自分の手でカヌーを作製することを通じて、木工技術や船の技術を習得・理解できました。なお、カヌーの一部は町内で出た廃材を利用して、リサイクルにも配慮したものになっています。

このイベントは、次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環です。



## イベント概要

- ・開催概要 木製のカヌーを参加者で作製しました
- ・日程 2022年9月16日、17日、18日、24日、25日
- ・開催場所 島根県隠岐郡海士町 ポートベース(海士町リモート交流促進施設1階)
- ・参加人数 4名

## あこがれの船を自分の手で

海に囲まれた海士町ですが、エンジンボートを所有することは免許やコストの関係でハードルが高い面もあり、誰でも気軽に船を持つことができるわけではありません。そのような中、自分で船を作って気軽にいつでも海に出かけられるようにしよう、というのが企画の始まりです。

自作の木製ヨットでマゼラン海峡を横断したこともあるハワード・ライスさんを講師に、4人の参加者が5日間弱で船を完成させました。参加者の方は、早速今週末にもカヌー遊びを予定されています。

また、教室はいったん終了ですが、参加者の皆さんで今後塗装されるそうで、どんなカラーリングになるか楽しみです。



## 木の手触りと創作の喜び

立体的なカヌーを平面の板を切り出して作成していく過程は参加者の方にとって新鮮なものでした。スマホやパソコンを閉じて、自分の手で木を触りながら加工していく時間は、癒しや喜びにもつながったようです。様々な工具の使い方を覚えながら、木工技術やカヌーの仕組みを習得する機会となりました。

また、材料の一部は島内で出た廃材を用いており、リサイクルや循環社会についても考えるきっかけとなったようです。



## <団体概要>

団体名称 : 海の士を育む会

URL :

<https://www.facebook.com/%E6%B5%B7%E3%81%AE%E5%9C%9F%E3%81%B2%E3%81%A8%E3%82%92%E8%82%B2%E3%82%80%E4%BC%9A-102705965795378/>

活動内容 : 海に関する体験や教育を通じてあらゆる世代の人々に海士町の海や文化に親しむ機会を提供する海洋センター(仮称)を設立し、活動を軌道に乗せるための検討・準備を行うことを目的に、カヌーづくり体験教室、ヨット教室、伝統的なかんこ船の復活プロジェクト、GPS付ミニボートプロジェクト等の活動を行っています。



## 日本財団「海と日本プロジェクト」

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

<https://uminohi.jp/>

### <お問い合わせ先>

団体名称 : 海の士(ひと)を育む会/海士町役場 担当者: 久保 英士

電話番号 : 08514-2-1221 メールアドレス: [uminohitowohagakumukai@gmail.com](mailto:uminohitowohagakumukai@gmail.com)